

平成18年社会生活基本調査

(「生活行動に関する結果」の県関係概要)

この概要は、平成18年に実施された「平成18年社会生活基本調査」のうち、今回総務省統計局から公表された「生活行動に関する結果」(自由時間等における過去1年間の主な活動に関する結果)の、熊本県関係の主なものを取りまとめたものである。

1 調査の概要

(1) 調査目的

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間等における主な活動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることを目的とし、総務省統計局が各都道府県を通して昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施。今回は7回目にあたる。

(2) 調査期日

平成18年10月20日現在

(3) 調査対象

全国の世帯から無作為に選定した約8万世帯(熊本県は約1,500世帯)、及びその世帯にふだん住んでいる10歳以上の世帯員

(4) 調査事項

- ①住居の種類等に関する事項
- ②ふだんの就業状態等世帯員の属性に関する事項
- ③1日の生活時間の配分に関する事項
- ④過去1年間の生活行動

2 結果の要約

○インターネットの利用

- ・「インターネットの利用」の行動者率は51.6%で全国59.4%を7.8ポイント下回る低い水準
特に10～14歳の若年層の行動者率が低い
- ・「電子メール」や「情報検索及びニュース等の情報入手」での利用が多い

○学習・研究

- ・行動者率は31.1%で5年前より若年層の低下が目立つ一方、45歳以上で行動者率が上昇
- ・「パソコンなどの情報処理」の行動者率が最も高く10.4%

○スポーツ

- ・行動者率は65.4%と全国に比べ0.1ポイント高いが、5年前の71.2%から大きく低下
- ・行動者率が最も高いのは「ウォーキング・軽い体操」であり、「つり」は全国第2位の行動者率

○趣味・娯楽

- ・行動者数1,300千人、行動者率は80.8%であるが、全国では第36位と低い行動者率
- ・全国第5位と高い「パチンコ」の行動者率
- ・55歳未満で高い「CDなどによる音楽鑑賞」、55歳以上で高い「園芸・庭いじり・ガーデニング」

○ボランティア活動

- ・行動者率は31.9%と全国の26.2%を上回り全国第11位のボランティア活動
- ・行動者率が最も高いのは「まちづくりのための活動」の16.9%
- ・「健康や医療サービスに関係した活動」と「高齢者を対象とした活動」は全国第2位

○旅行・行楽

- ・行動者率は71.1%と5年前より5.3ポイント低下し、全体的に低下傾向
- ・「観光旅行(海外)」の行動者率は男女ともに55～64歳が最も高い

3 今後の結果公表予定(総務省統計局)

- ①生活時間の配分に関する結果……………平成19年9月
- ②詳細行動分類による生活時間に関する結果……平成19年12月

◆用語の説明

- ・行動者数…過去1年間(平成17年10月20日から平成18年10月19日まで)に該当する種類の活動を行った人(10歳以上)の数(母集団における行動者数の推定値)
- ・行動者率…行動者数の10歳以上人口に占める割合(%)

◆詳細データについては総務省統計局ホームページ(<http://www.stat.go.jp>)をご覧ください。

1 インターネットの利用

・「インターネットの利用」の行動者率は51.6%で全国59.4%を7.8ポイント下回る低い水準
特に10～14歳の若年層の行動者率が低い

過去1年間(平成17年10月20日～平成18年10月19日。以下同じ。)にインターネットを利用した人(10歳以上。以下同じ。)は830千人で、10歳以上人口に占める割合(行動者率。以下同じ。)は51.6%となっている。男女別にみると、男性が54.3%、女性が49.2%となっている。

仕事や学業での利用も含め調査している前回と比べても14.3ポイント高く、またすべての年齢階級で上昇していることから、この5年間でインターネットの利用が広く生活に浸透したことを示している。男女別では、男性が11.4ポイント、女性が16.8ポイントの上昇となり女性の行動者率の上昇が高い。

しかし、全国と比べると本県は7.8ポイント低い。また47都道府県中第32位となっており、全国的には低い行動者率となった。

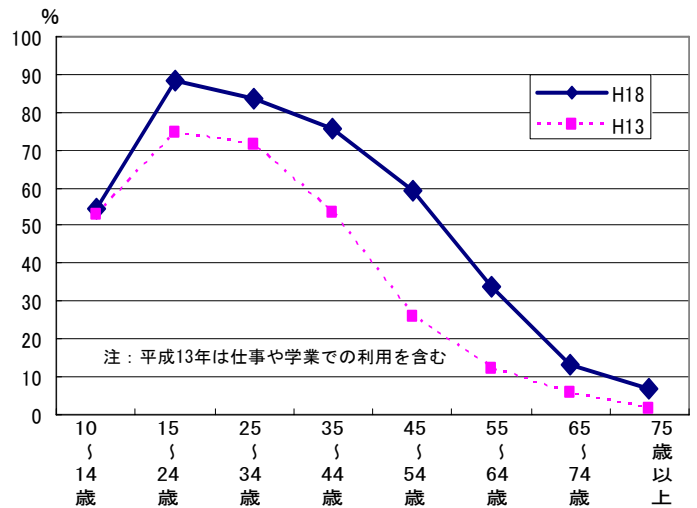
全国の年齢階級別行動者率と比べると、特に10～14歳の若年層の行動者率が低い。

・「電子メール」や「情報検索及びニュース等の情報入手」での利用が多い

「インターネットの利用」の種類別行動者率をみると、「電子メール」が40.0%と最も高く、次いで「情報検索及びニュース等の情報入手」が34.0%、「画像・動画・音楽データ、ソフトウェアの入手」が22.6%、「商品やサービスの予約・購入、支払いなどの利用」が16.6%、「掲示板・チャット」が9.1%、「ホームページ、ブログの開設・更新」が5.8%となっている。

男女別にみると、いずれも男性の方が高くなっており、特に「情報検索及びニュース等の情報入手」や「画像・動画・音楽データ、ソフトウェアの入手」での差が大きい。

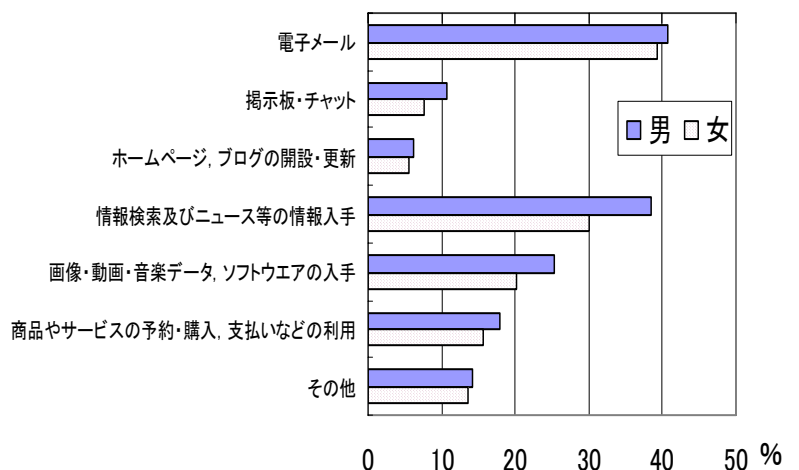
(図1) 年齢階級別「インターネットの利用」の行動者率(平成13年、18年)



(表1) 熊本県と全国の年齢別行動者率

	熊本県	全国	県一全国
総数	51.6	59.4	▲ 7.8
10～14歳	54.6	65.4	▲ 10.8
15～24歳	88.1	89.9	▲ 1.8
25～34歳	83.8	87.7	▲ 3.9
35～44歳	75.4	82.5	▲ 7.1
45～54歳	59.5	65.7	▲ 6.2
55～64歳	33.6	41.1	▲ 7.5
65～74歳	13	21.5	▲ 8.5
75歳以上	6.8	6.7	0.1

(図2) 男女、「インターネットの利用」の種類別行動者率



2 学習・研究

・行動者率は31.1%で前回と比べて若年層の低下が目立つ一方、45歳以上で行動者率が上昇

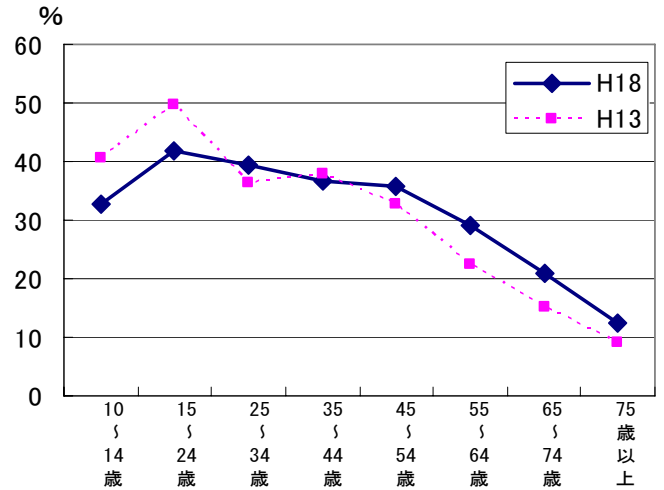
過去1年間に何らかの「学習・研究」を行った人は501千人、行動者率は31.1%となっている。男女別にみると、男性が29.1%、女性が33.0%となっている。

行動者率は前回に比べ0.3ポイント高く、全国と比べると4.1ポイント低い。また、47都道府県中第30位となった。

行動者率を年齢階級別にみると、15～24歳が41.9%と最も高く、年齢が高くなるにつれて低下している。

前回と比べると、10～24歳の若い年齢階級で低下が目立つ一方、45歳以上の年齢階級では上昇している。

(図3) 年齢階級別「学習・研究」の行動者率(平成13年、18年)



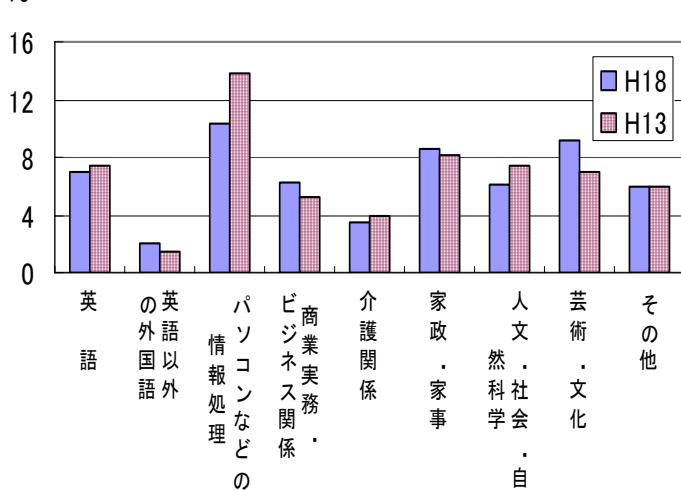
・最も高い「パソコンなどの情報処理」の行動者率

「学習・研究」の種類別に行動者率をみると、「パソコンなどの情報処理」が10.4%と最も高く、次いで「芸術・文化」が9.2%、「家政・家事」が8.6%などとなっている。

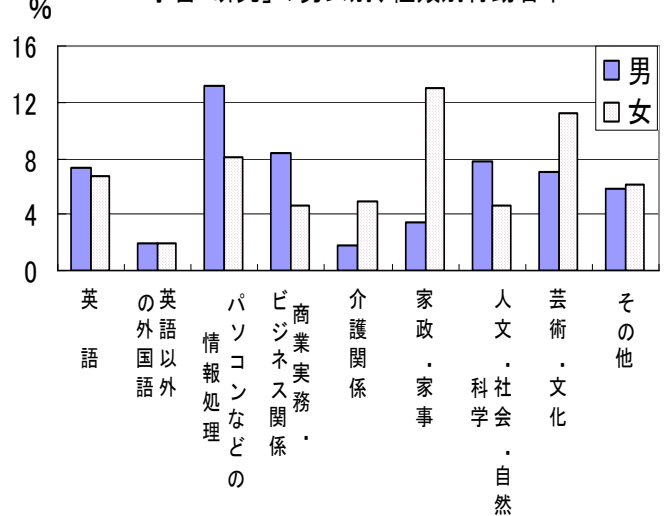
前回と比べると最も低下したのは「パソコンなどの情報処理」で、最も上昇したのは「芸術・文化」となっている。

男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が13.1%と最も高く、女性は「家政・家事」が13.0%と最も高かった。

(図4) 「学習・研究」の種類別行動者率(平成13年、18年)



(図5) 「学習・研究」の男女別、種類別行動者率



3 スポーツ

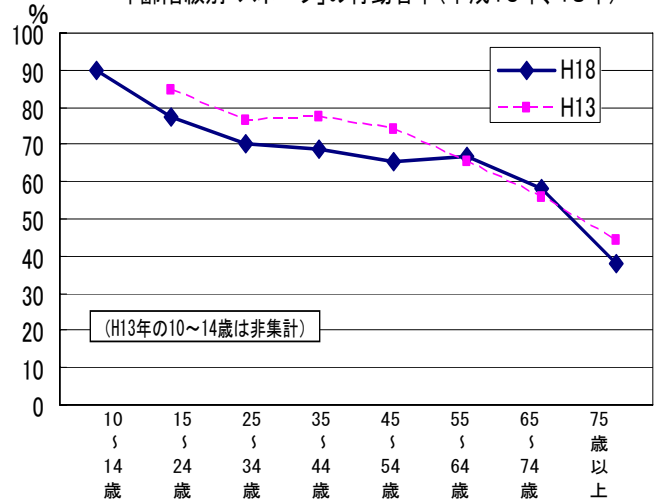
・行動者率は65.4%と全国に比べ0.1ポイント高いが、前回の71.2%から大きく低下

過去1年間に、何らかの「スポーツ」を行った人は1,051千人で、行動者率は65.4%となっている。男女別にみると、男性が71.7%、女性が59.8%となっている。

行動者率は、前年に比べ5.8ポイント低下したものの、全国より0.1ポイント高く、47都道府県中第14位と、全国的にはやや高めの行動者率となった。

年齢階級別にみると、10～14歳が90.0%と最も高く、年齢が高くなるにつれおおむね低下している。前回と比べると、55～74歳でわずかに上回ったものの、その他の年齢階級では前回は下回った。

(図6) 年齢階級別「スポーツ」の行動者率(平成13年、18年)



・行動者率が最も高いのは「ウォーキング・軽い体操」

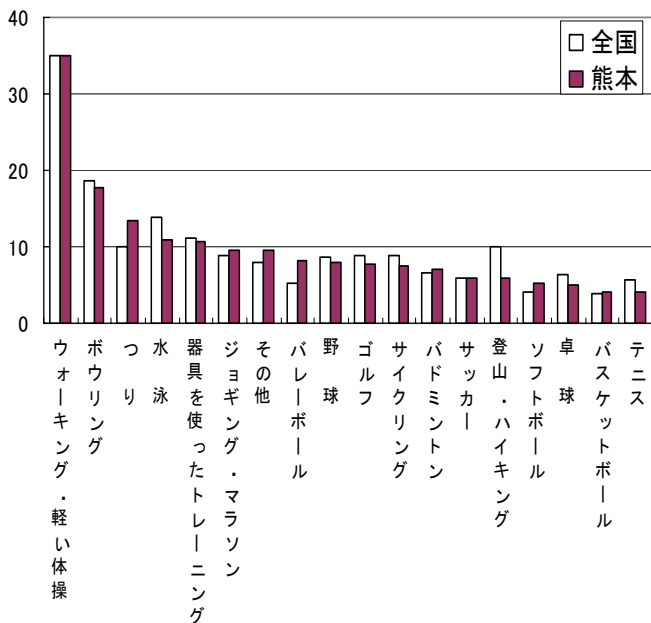
・全国と比べ高い行動者率の「釣り」

「スポーツ」の種類別に行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」が34.9%と最も高く、次いで「ボウリング」が17.8%などとなっている。

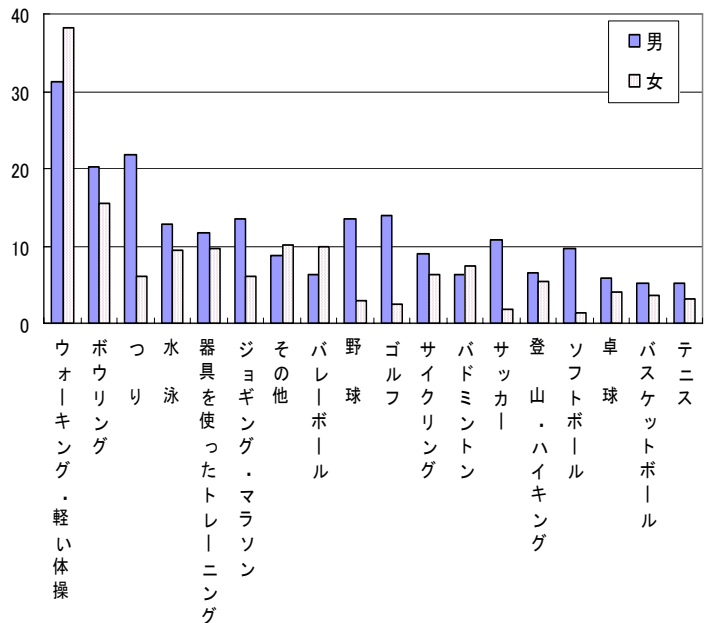
全国と本県の行動者率を比べると、「釣り」で3.3ポイント、「バレーボール」で2.9ポイント全国を上回った。「釣り」については13.3%で、47都道府県中第2位と、全国でも高い行動者率となっている。

男女別にみると、男女共に「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、次いで、男性は「釣り」、女性は「ボウリング」となっている。

(図7) 全国と熊本県の「スポーツ」の種類別行動者率



(図8) 男女、「スポーツ」の種類別行動者率



注:熊本県の行動者率が3%以上の種類を表章

4 趣味・娯楽

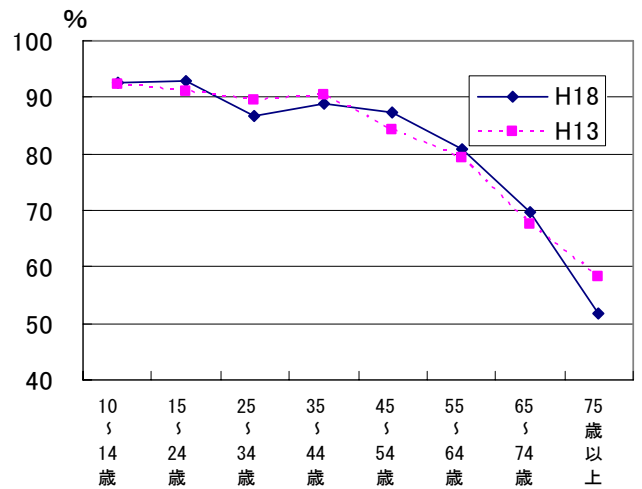
・行動者率 80.8%、47 都道府県中第 36 位と低い行動者率

過去 1 年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は 1,300 千人で、行動者率は 80.8%となっている。男女別にみると、男性が 81.2%、女性が 80.6%となっている。

行動者率は、前回に比べ 1.1 ポイント低下し、全国より 4.1 ポイント低く、47 都道府県中第 36 位と、全国的には低い行動者率となった。

行動者率を年齢階級別にみると、15～24 歳で 92.9%と最も高く、年齢が高くなるにつれておおむね低下している。

(図9) 年齢階級別「趣味・娯楽」の行動者率(平成13年、18年)

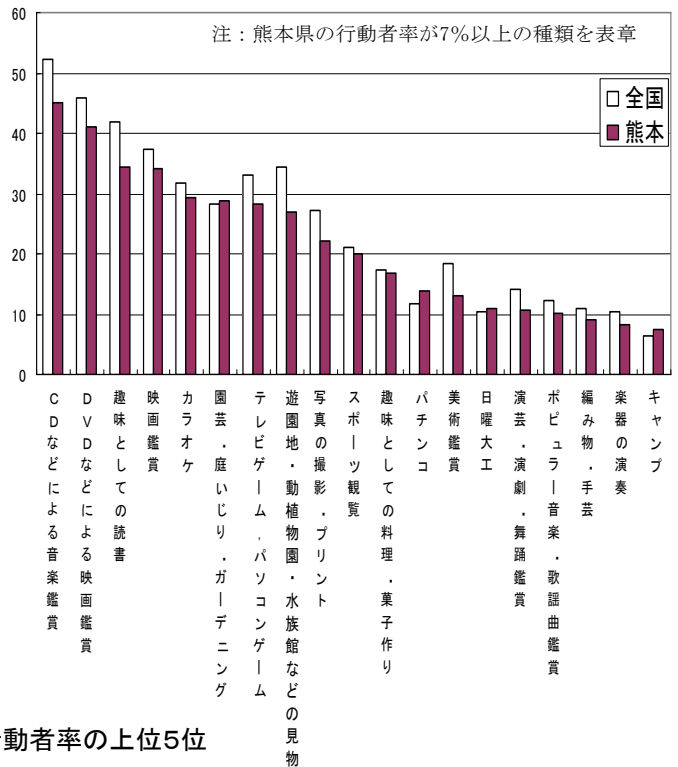


・47 都道府県中第 5 位と高い「パチンコ」の行動者率

「趣味・娯楽」の種類別に行動者率をみると、「CDなどによる音楽鑑賞」が 45.2%と最も高く、次いで「DVDなどによる映画鑑賞」が 41.2%などとなっている。

全国と比べると、ほとんどの種類で全国を下回っているが、「パチンコ」は 13.9%で、47 都道府県中第 5 位と全国でも高い行動者率となっている。

(図10) 全国と熊本県の「趣味・娯楽」の種類別行動者率



・55 歳未満で高い「CDなどによる音楽鑑賞」、55 歳以上で高い「園芸・庭いじり・ガーデニング」

「趣味・娯楽」の種類別行動者率を年齢別にみると、54 歳までの年齢階級では「CD などによる音楽鑑賞」と「DVDなどによる映画鑑賞」が高く、それより高い年齢階級では「園芸・庭いじり・ガーデニング」や「趣味としての読書」が高くなっている。

(表2) 年齢階級別、「趣味・娯楽」の種類別行動者率の上位5位

	10～14歳	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75歳以上
1位	テレビゲーム、パソコンゲーム	CD などによる音楽鑑賞	CD などによる音楽鑑賞	CD などによる音楽鑑賞	CD などによる音楽鑑賞	園芸・庭いじり・ガーデニング	園芸・庭いじり・ガーデニング	園芸・庭いじり・ガーデニング
2位	CD などによる音楽鑑賞	DVDなどによる映画鑑賞	DVDなどによる映画鑑賞	DVDなどによる映画鑑賞	DVDなどによる映画鑑賞	趣味としての読書	趣味としての読書	趣味としての読書
3位	DVDなどによる映画鑑賞	テレビゲーム、パソコンゲーム	テレビゲーム、パソコンゲーム	映画鑑賞	園芸・庭いじり・ガーデニング	CD などによる音楽鑑賞	カラオケ	CD などによる音楽鑑賞
4位	映画鑑賞	映画鑑賞	映画鑑賞	趣味としての読書	趣味としての読書	カラオケ	CD などによる音楽鑑賞	日曜大工
5位	遊園地、動植物園、水族館などの見物	カラオケ	カラオケ	遊園地、動植物園、水族館などの見物	映画鑑賞	映画鑑賞	映画鑑賞	演芸・演劇・舞踊鑑賞

5 ボランティア活動

・行動者率は 31.9%と全国の 26.2%を上回る
47 都道府県中第 11 位のボランティア活動

過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は 513 千人で、行動者率は 31.9%となっている。男女別にみると、男性が 32.2%、女性が 31.6%となっている。

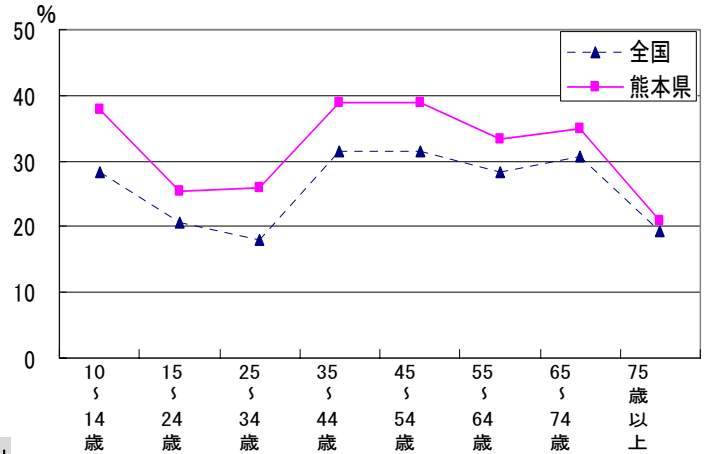
行動者率は前回に比べ 3.5 ポイント低下したものの、全国より 5.7 ポイント高い。また、男性は 7.1 ポイント、女性は 4.4 ポイント全国を上回っており、本県は男性の行動者率が全国的にみて高い。

全国の年齢階級別行動者率と比べても、すべての年齢階級で上回っており、本県はボランティア活動が盛んなことがわかる。

(表3) 熊本県と全国の男女別行動者率

(%)	熊本県	全国	熊本県-全国
総数	31.9	26.2	5.7
男	32.2	25.1	7.1
女	31.6	27.2	4.4

(図11) 年齢階級別「ボランティア活動」の行動者率(全国、熊本県)



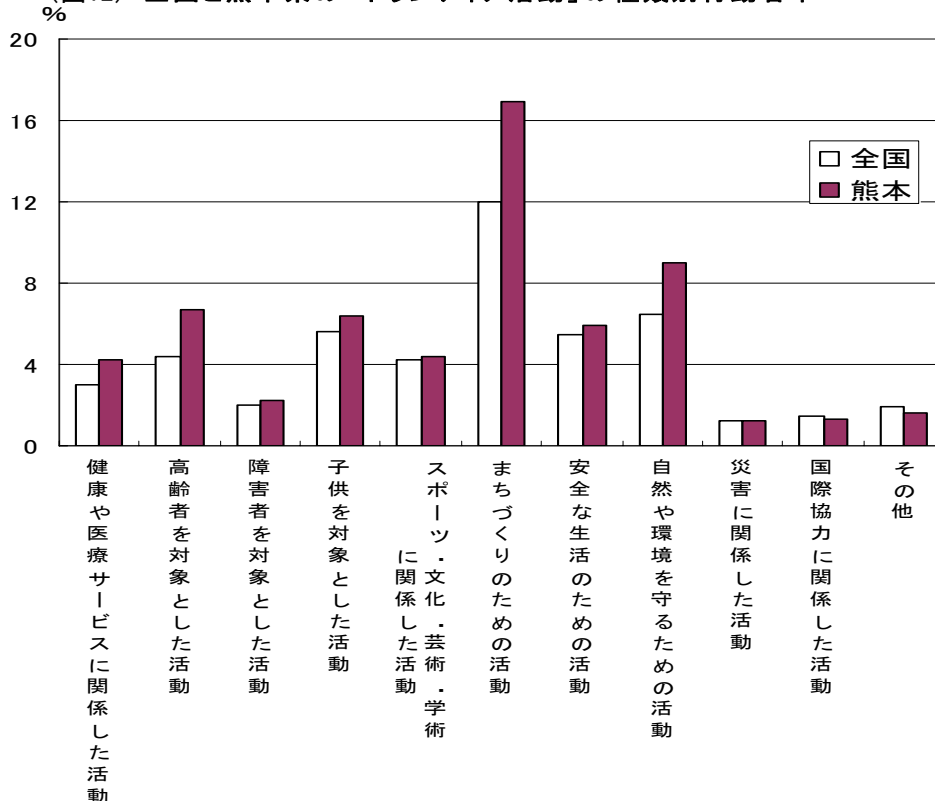
・行動者率が最も高い「まちづくりのための活動」

・「健康や医療サービスに関係した活動」と「高齢者を対象とした活動」は 47 都道府県中第 2 位と全国でも高い行動者率

「ボランティア活動」の種類別に行動者率をみると、「まちづくりのための活動」が 16.9%と最も高く、次いで「自然や環境を守るための活動」が 9.0%などとなっている。

全国と比べると、「まちづくりのための活動」などで全国を上回った。特に、献血などの「健康や医療サービスに関係した活動」4.2%と、高齢者の日常生活の手助けなどの「高齢者を対象とした活動」6.7%については、47 都道府県中第 2 位と全国でも高い行動者率となっている。

(図12) 全国と熊本県の「ボランティア活動」の種類別行動者率



6 旅行・行楽

・行動者率は71.1%と前回と比べ5.3ポイント低下し、全体的に低下傾向

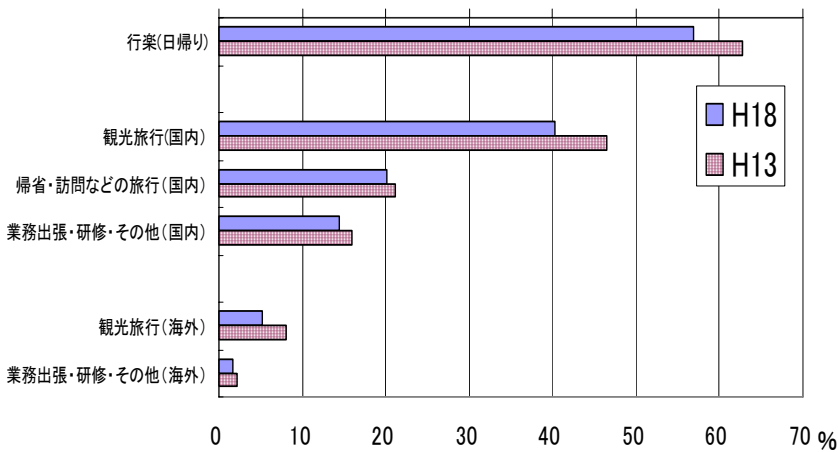
過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は1,144千人で、行動者率は71.1%となっている。男女別にみると、男性が69.5%、女性が72.6%となっている。行動者率は前回に比べ5.3ポイント低下している。

種類別に行動者率をみると、「行楽(日帰り)」が56.9%と最も高く、次いで「観光旅行(国内)」が40.3%などとなっている。

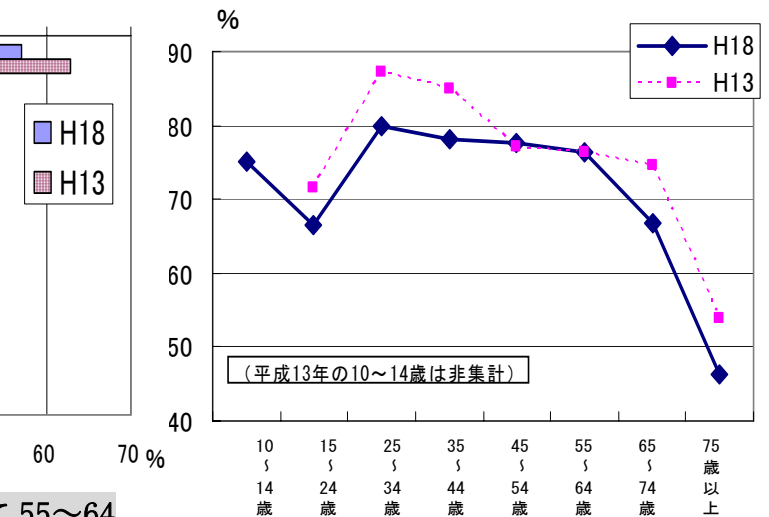
年齢階級別にみると、25～34歳で80.0%と最も高く、年齢が高くなるにつれて低下している。

前回と比べると、すべての種類で行動者率が低下している。年齢階級別にみても45～64歳でわずかに上回っているものの、それらを除くすべての年齢階級で行動者率は低下しており、「旅行・行楽」は全体的に低下傾向となった。

(図13) 「旅行・行楽」の種類別行動者率(平成13年、18年)



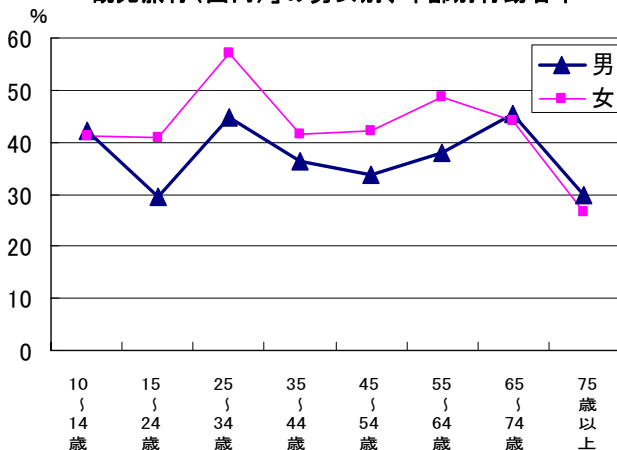
(図14) 年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率(平成13年、18年)



・「観光旅行(海外)」の行動者率は男女ともに55～64歳が最も高い

男女別にみると、「観光旅行(国内)」については男性が65～74歳で最も高く、女性は25～34歳で最も高くなっている。「観光旅行(海外)」については、仕事からのリタイア期がある55～64歳で男性、女性ともに最も高くなっている。65歳以上になると国内、海外ともに、女性より男性の行動者率が高い。

(図15) 「観光旅行(国内)」の男女別、年齢別行動者率



(図16) 「観光旅行(海外)」の男女別、年齢別行動者率

